

第34回学術集会を終えて

MATSUO Keitaro
松尾 恵太郎
愛知県がんセンター



学術集会に数多くの方に参加いただきましたこと、大会事務局長として心より御礼申し上げます。また、開催に当たりご協力を頂きました皆様にも心より御礼申し上げます。

私自身はがん登録には関りつつも日本がん登録協議会そのものとは御縁はありませんでした。そういう中、伊藤秀美先生が大会長を引き受けられ、長年の研究の相棒のアシストをするべく事務局長を務めさせて頂きました。大会の企画は殆ど伊藤先生の手によるもので、私自身は大会準備に関しては裏方に徹しました。大会中は、万事おとなしめの大会長の代わりにディスカッションを盛り上げる、というところに注力したつもりです。無事盛会に終わってホッとした、という事に尽きます。

学術集会企画シンポジウムの中で私自身が演者として触れましたが、私の疫学研究者人生においてがん登録が常に傍らにありました。その殆どがユーザーとしてではありましたが、一時期は運営側でもありました。第3期対がん10カ年戦略の通称祖父江班の班員として地域がん登録の標準データベース体制に関わる事が出来たのは、ユーザーとして視点以外のものを知る得がたい経験でした。その時一緒にやっていた方々には戦友に近い想いを抱いており、学術集会でそうした方々ももてなすことができたのは、事務局長冥利に尽きることでした。人生で

初めてビンゴゲームの司会をしたのも、あまりそういうキャラをやったことがなかったので良い経験でした。

私個人は全国・院内どちらのがん登録も、それ単独あるいは他のデータと組み合わせる事によって、より多くの新しい知識を生み出すポテンシャルを持っていると信じています。それを生かす仕事を私自身は続けていきたいと思っています。それと同時に日本がん登録協議会がその基盤であり続ける事を願っています。

